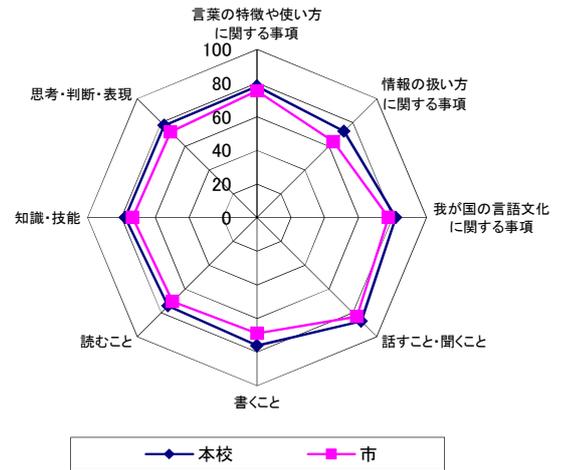


宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	78.1	75.4	68.3
	情報の扱い方に関する事項	72.7	63.9	58.0
	我が国の言語文化に関する事項	82.0	77.6	69.1
	話すこと・聞くこと	87.1	83.2	81.6
	書くこと	76.1	68.9	58.6
	読むこと	74.3	70.5	65.7
	観点別	知識・技能	77.8	73.4
思考・判断・表現		77.5	72.2	65.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

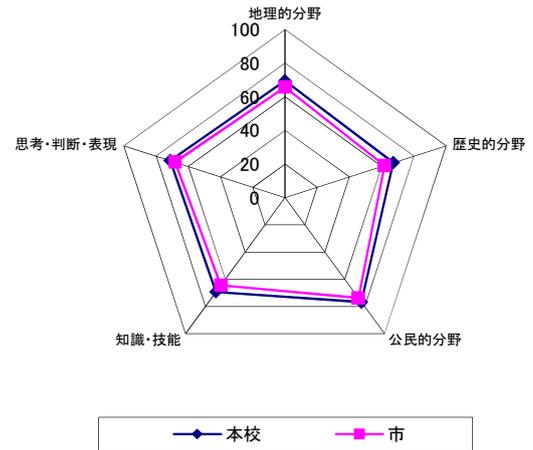
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は市の平均を2.7ポイント上回った。 ●漢字の読みでは1問だけ市の平均を4.1ポイント下回った。 ●「用言の活用について理解している。」という問いは正答率が48.5%と半数を切り、市の平均を4.1ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字に関しては、市平均をほとんど上回っているものの、普段のダイアリーや作文を見ると、漢字や送り仮名のミスが多ことから、漢字テストを通して力を定着させたり、普段から漢字を使うように声掛けをしたりしていく。 ・文法は繰り返し問題を解くことが大切である。1年生の内容から、段階的・反復的に指導をしていく。
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は市の平均を8.8ポイント上回り、全ての出題の正答率が市の平均を上回った。 ○特に「情報との関係について理解し、文章全体を整えている」に関する問いでは市の平均を9.8ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・情報の扱い方に関する正答率が高いものの、作文指導において、グラフからの読み取りをさせる際に適切な情報を読み取ることができない場面も見られるので、グラフや表、新聞記事などから情報を正しく読み取り、扱うことを重点的に指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は市の平均を4.4ポイント上回った。 ●現代語を手掛かりに古文を読む問題では、市の平均を2.1ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・歴史的仮名遣いの読みはできるようになってきているので、1年次から継続的に指導を行う。 ・古典の内容理解に関しては、分かる言葉から内容を理解できるようにすることが大切である。古典作品を読む際に、大まかな内容を適切に読み取り、現代語で考えることを意識させる。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は市の平均を3.9ポイント上回り、全ての出題の正答率が市の平均を上回った。 ○特に「自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話している。」については市の正答率を6.1ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・話し合いや話し方などに関する形式的な知識は身に付いていると考えられるが、授業内で話し合い活動をさせると根拠を述べられなかったり、説得力の弱い根拠しか挙げられない生徒が見受けられるので、議論の場を積極的に設けていく必要がある。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は市の平均を7.2ポイント上回った。 ●「読み取った内容を明確にして書いている」に関する問いでは、市の正答率を0.4ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・普段のテストでは、40字近くの記述問題になると無回答率が高くなるので、普段からあきらめずに答えを考えて書くような声掛けを行う。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は市の平均を3.8ポイント上回った。 ●「物語の展開の仕方を捉えている」に関する問いでは、市の正答率を0.5ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業内で文学的な文章を取り扱っていると、登場人物の心情を読み取る力が弱い生徒が見受けられる。登場人物の行動や発言から正しく心情を読み取ることを重点的に指導していく。

宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	69.4	65.7	56.7
	歴史的分野	67.2	61.7	54.8
	公民的分野	76.7	73.8	73.3
観点別	知識・技能	69.3	64.5	59.5
	思考・判断・表現	71.2	68.2	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

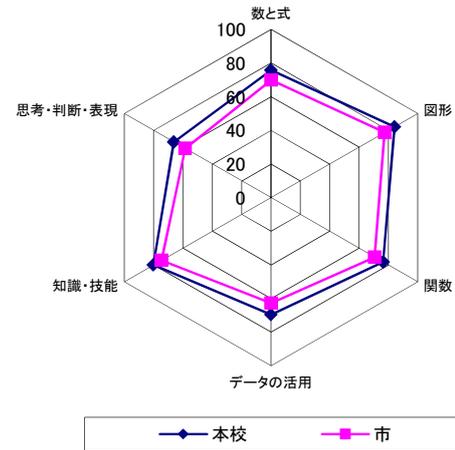
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	平均正答率は69.4%で市平均より4.2ポイント高かった。 ○緯度と経度についての理解をもとに地図を読み取る問題では、市平均を9.0ポイント上回った。 ●九州、中国・四国、近畿地方の工業の特色を答える問題の平均正答率は43.8%で、市平均よりも5.9ポイント下回った。	・日本の地方の特色について、継続的に関連事項を結び付けて説明する必要がある。 ・文字だけではなく、映像資料等を生かし、生徒の学習内容の定着に努めていく。
歴史的分野	平均正答率は67.2%で市平均より6.1ポイント高かった。 ○江戸幕府の対外関係についての琉球の役割に関する問題では、市平均を10.1ポイント上回った。 ●三都の反映や海運の発達についての資料考察問題の平均正答率は52.6%で、市平均より0.4ポイント下回った。	・歴史的事象の関連を意識して、引き続き資料等を活用して指導に取り組んでいく。 ・三都の反映や海運など、自分たちの生活に縁が薄いことに関して学習の定着に差が見られるので、視覚的情報を盛り込む指導を意識していく。
公民的分野	平均正答率は76.7%で市平均より3.9ポイント高かった。 ○憲法改正の手続きについての理解を答える問題では、市平均を7.8ポイント上回った。 ●公共の福祉について、資料を参考にして、表現する問題では、市平均を0.1%下回った。	・人権や社会問題に関する問題の正答率は比較的高く、学習内容が定着していると考えられる。 ・公共の福祉に関する表現の問題が正答率を下回ってしまったので、授業の中で自分の意見を書く機会や自分の考えを発表する機会を増やしていく。

宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	75.8	69.9	66.4
	図形	84.2	77.4	68.1
	関数	76.5	70.6	60.8
	データの活用	69.6	62.7	54.2
観点別	知識・技能	80.2	74.6	70.3
	思考・判断・表現	66.2	58.4	43.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

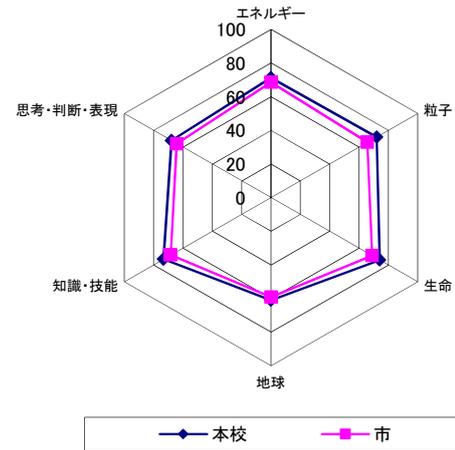
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>平均正答率は、市平均より5.9ポイント上回った。</p> <p>○数と式の領域のすべての問題で、市平均を上回った。</p> <p>●根号をふくむ式の計算や与えられた文章問題から、適切な連立方程式を立式する問題では、正答率が低かった。</p>	<p>・基本的な計算は、よく理解していて、定着が図られている。平方根の内容では、苦手意識をもつ生徒が多くみられるので、授業で繰り返し練習していく。</p> <p>・文章問題から適切な立式ができるように、問題から図、表、式など、さまざまな方法を用いて問題を取り組む場面を、授業で多く取り入れていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、市平均より6.8ポイント上回った。</p> <p>○図形の領域のすべての問題で、市平均を上回った。</p> <p>●おうぎ形の面積を求める問題では、他の問題に比べると正答率が低かった。</p>	<p>・図形の基本的な性質は、理解することができている。</p> <p>・デジタル教科書や具体物を使用して、苦手意識のある生徒に対して、図形、立体を理解する力をつけていく。</p>
関数	<p>平均正答率は、市平均より5.9ポイント上回った。</p> <p>○関数の問題では、すべての問題も市平均正答率を上回った。</p> <p>●xの2乗に比例する関数では、問題の条件に合う点の座標を求める問題の正答率が低かった。</p>	<p>・関数についての基礎基本は、理解することができている。</p> <p>・関数を利用して考える問題については、似たような問題を繰り返し取り組み、理解できるよう指導していく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市平均より6.9ポイント上回った。</p> <p>○データの分布の傾向の問題では、市平均正答率を5～14ポイント上回った。</p> <p>●6本のくじから1本をひくときの確立を求める問題では、市平均を1ポイント下回った。</p>	<p>・平均値、階級値、度数折れ線、四分位範囲、箱ひげ図など用語の意味の理解を引き続き深めていく。</p> <p>・確率の問題では、表や樹形図をかいて、問題に取り組むことを繰り返し指導していく。</p>

宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	71.3	68.7	63.6
	粒子	71.9	65.7	64.2
	生命	74.1	68.9	64.4
	地球	61.0	59.2	54.3
観点別	知識・技能	73.2	68.4	64.4
	思考・判断・表現	67.8	64.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

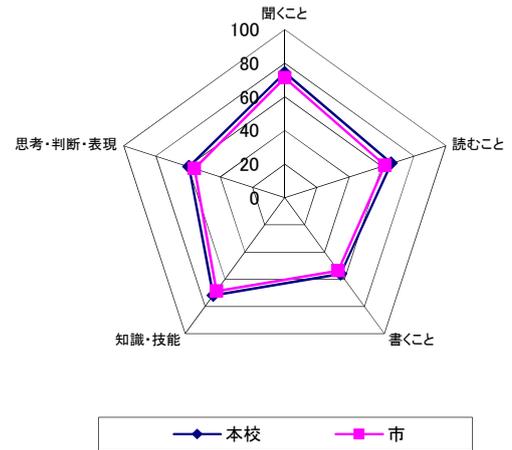
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>平均正答率は71.3%で市平均より2.6ポイント高かった。</p> <p>○物体の運動の問題で、紙テープのはじめの部分を使用しない理由については、平均正答率が84.5%と高かった。</p> <p>●磁界の向きについての問題では、市平均を上回ったものの、正答率が52.1%と低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実験データの記録方法、正しい読み取り方を身につけさせていく。 ・引き続き実験・観察の結果から考察する時間を十分に確保し、思考力を高める。
粒子	<p>平均正答率は71.9%で市平均より6.2ポイント高かった。</p> <p>○水溶液とイオンの「電解質」についての問題では、平均正答率89.2%と市平均を大きく上回った。</p> <p>●水を電気分解したときのようすを推測する問題では、市平均を上回ったものの、正答率が46.4%と低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストで、化学式、イオンの化学式、化学反応式など基礎基本を定着させる。 ・引き続き実験・観察の結果から考察する時間を十分に確保し、思考力を高める。 ・分解や物質が結びつく反応について、反応の流れを視覚的に理解できるようにする。
生命	<p>平均正答率は74.1%で市平均より5.2ポイント高かった。</p> <p>○生命についての問題では、全ての平均正答率が市平均を上回った。</p> <p>●実験の結果から、だ液のはたらきについて考察する問題では、市平均を上回ったものの、正答率が57.7%と低かった。また、卵、精子、体細胞の染色体数について推測する問題でも正答率が53.1%と低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・形質と遺伝子について、作図しながら繰り返し問題に取り組むことで定着度を高める。 ・体細胞分裂と減数分裂についても、視覚的情報を活用し、知識を定着させていく。
地球	<p>平均正答率は61.0%で市平均より1.8ポイント高かった。</p> <p>○火山についての問題では、平均正答率が市平均を大きく上回った。</p> <p>●前線の通過と天気の変化では、平均正答率が市平均を下回った。特に気温、湿度、気圧の観測記録について指摘する問題では、平均正答率51.5%と市平均を5.2ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気象要素の観測記録から気象の変化を読み取れるよう、特徴的なデータを用いて考察する時間を多く設ける。 ・天気図、気圧配置などを作図することで知識を定着させていく。

宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	74.4	71.2	65.4
	読むこと	66.2	62.1	56.9
	書くこと	56.0	53.8	42.5
観点別	知識・技能	71.9	68.8	64.7
	思考・判断・表現	59.5	56.1	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>平均正答率は74.4%で市平均より3.2ポイント高かった。</p> <p>○対話を聞き、対話の概要を捉えて適切に応答する問題においては、市平均を7.3ポイントも高かった。</p> <p>●英文を聞き、その要点を捉えて自分の考えを英文で答えている問題では、他の問題の正答率を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、実際の場面を想定した聞き取り活動を繰り返し行い、概要や要点を捉える力を付けていく。 ・聞き取る力を育てるため、口頭による対話形式での表現活動を取り入れていく。
読むこと	<p>平均正答率は66.2%で市平均より3.2ポイント高かった。</p> <p>○対話文の情報を読み取る問題では、市平均を上回った。</p> <p>●大問8(3)のメールの内容を読み取る問題では、市平均7.1ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長文は概要や要点の読み取り練習、図や表を適切に読み取らせるための練習を引き続き行っていく。 ・基礎的な語形・語法が知識として定着していないことが課題である。文法の導入時にはパターンプラクティスを多く取り入れたり、こまめに小テストを実施する。また、それらの文法を対話文のどの部分で使用すべきか理解ができていないので、その使用場面・状況も併せて、定着させる。
書くこと	<p>平均正答率は56.0%で市平均を2.2ポイント上回った。</p> <p>○スマートフォンの使用に対する考えや意見を、まとめた内容で、相手に伝えるように書く問題では、市平均を6.1ポイント上回った。</p> <p>●場面に応じて英作する問題では、市平均を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時事的な問題についても自分の意見や感想を述べられるよう、テーマに沿った語彙や表現方法を学習する機会を多く取り入れる。 ・並び替えの正答率からは、英語の基礎的な語順の定着ができていないことが考えられる。日本語の語順との違いを理解させる活動を取り入れていく。

宇都宮市立豊郷中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開期間の相互授業参観による授業力向上の推進 ・教科部会による授業力向上の研鑽 	<ul style="list-style-type: none"> ・「一人一授業」を実施し、教科を超えて参観することで授業工夫の参考にする。 ・教科部会において、特にICT機器を効果的に授業に取り入れる工夫について話し合いをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校の授業がどの程度分かりますか。」という項目に対する肯定割合は、1・3学年では市の平均を上回っているが、2学年では下回った。(1年2.7ポイント、2年-2.3ポイント、3年2.7ポイント) ・「パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる。」という項目に対する肯定割合は、全学年で市の平均を上回った。(1年1.3ポイント、2年2.4ポイント、3年8.1ポイント)
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習のための「家庭学習ノート」の活用 ・週1回のAIDリルの日の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会が中心となって家庭学習に積極的に取り組ませ、毎日「家庭学習ノート」を提出するよう指導する。 ・委員会の通信「学習のすゝめ」を発行し、学習方法のアドバイスをする。 ・週一回、AIDリルを用いての学習時間の設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」という項目に対する肯定割合が、各学年ともに市の平均を上回った。(1年13.9ポイント、2年6.4ポイント、3年7.8ポイント)

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・「授業が分かる」と生徒が実感できるような、生徒の興味・関心を高めるための課題提示や導入の分かりやすさ、授業展開の工夫、評価方法の工夫など分かりやすい授業の実践に努める。そのために、より一層、「一人一授業」の参観や教科部会を活用し、教科間はもちろんのこと、他教科からもお互い研鑽しあえるような場を活性化していく。
- ・生徒が主体的に学び、協働して問題解決にあたるような活動を取り入れる。自分の意見を進んで発言できる生徒に限られるので、生徒全員が話し合いに進んで参加し、自分の意見を自信をもって発表できるように、話し合いの仕方や場の工夫をしていく。また、発表をした生徒を称賛することで、次時への更なる意欲の向上を促したい。
- ・ICTを主体的、協働的な学びに効果的に生かしていく方法について、教科部会で研鑽を重ねる。
- ・引き続き、委員会を中心とした家庭学習の推進を図っていく。